

S: ミュンヘン音楽大学ではクラウス・ショッホのもとで5年間学び、ソロ曲の他、オーケストラや室内楽をたくさんやりました。パリ音楽院ではピエール・アルトーのもとで1年間と(プライベートで)半年間学びました。パリ音楽院での初めての経験は、他の学生のレッスンをお互いに聴講することです。いつも誰かが私のレッスンを聴いているので、最初、私はとても神経質になりましたが、聴衆がいるという緊張感が味わえて、結果、多くを学ぶことができました。レッスン内容は、テクニックの練習を筆頭にオーケストラスタディ、そして、文献の研究もやりました。曲はプロコフィエフの『ソナタ』、シューベルトの『しぼめる花の主題による序奏と変奏曲』、ドホナーニの『パッサカリア』、バガニーニの『カプリス』などを学びました。そして、24名のフルーティストによるオーケストラも人生はじめて(!)体験しましたよ。その他、パリでは、ヴァンサン・リュカやミヒ・キムにも習い、とても刺激を受けました。本当はもっとパリで勉強を続けたかったのですが、個人的な事情で残念ながらミュンヘンへ戻らなければいけませんでした。そして、再びミュンヘンでトラヴェルソをミハエル・シュミット=カスドルフのもとで学びました。このようにまったく違った環境のミュンヘンとパリで学べたことは、よい経験でした。

—いくつかのコースで学ばれたとプロフィールにありますが、それぞれどのようなことを学ばれたのでしょうか?

S: 私は、バロックフルートコース、歴史的パフォーマンスコース、即興のコースで学びました。これらのコースで学んだことによって、フルーティストとして演奏が柔軟になったと思います。例えば、モダンフルートでバッハを演奏する場合、それはもちろんトラヴェルソではありませんが、バロック形式のアーティキュ

レーションや装飾を自発的に演奏できるようになり、演奏が水平から立体的に側面が広がったと思います。歴史的パフォーマンスコースでは、ここでも、装飾のやり方をクヴァンツやオットテールなどの演奏理論から学び、通奏低音奏法についても学びました。それから、即興コースで私に「衝動」を与えたのは、ピアニストのガリーナ・ブラチエーバと、友人の作曲家、ピアニストのウリ・ブレーナーです。ブレーナーは、しばしば一緒に即興をやってくれ、私を助けてくれました。

クラシックとジャズの融合 “Clazzic”

—ジルベスターさんはジャズとクラシック音楽を融合させた多様性のあるアンサンブル“Clazzic”を結成されましたが、その利点と、演奏スタイルについておしえてください。

S: クラシックという、しっかりとした大きな木の幹があり、そこにたくさんの枝が広がっていて、花が咲き、いろんな実が実るといった感じの音楽感を私は持っています。根幹になるクラシックに「忠実」であるからこそ、ヴァリエーションを自由に発展させることができるのです。そのヴァリエーションとは、私たちが2009年に結成した“Clazzic(クラジック)”で結実しました。

このグループは、ピアニストのSusanna Klovsky、ベースのAlex Bayer、そして、ドラムのThomas Sporrerとのグループで、最初はクロード・ボリングの作品から演奏し始めました。もっとレパートリーを広げていきたかったので、私たちはイスラエルに住む友人(ロシア生まれでドイツで勉強した)ウリ・ブレーナーに何か作曲してくれないかと頼んだところ、私たちのために『Clazzic組曲』を作曲してくれました。この組曲の中には、私が特に気に入っているバッハの『2本のフルー

トのためのソナタ ト長調BWV1039]や、その他のメンバーの希望曲を取り入れてもらい、ストラヴィンスキーの『火の鳥』、モーツァルトの『デュオソナタ』などのモチーフをジャズ風にアレンジしたものが入っています。その他、アルゼンチンの作曲家にも『ミロンガ』を作曲してもらって、同じCDに収録しました。

私たちにとって、これらのパフォーマンスは新しい発見ばかりで、クラシック音楽の型から出て、ジャズという違う視点からクラシック音楽を改めて眺めてみることによって、既存の音楽の素晴らしさが自然にわかりました。このように私の演奏スタイルは、ジャズのアーティキュレーションを使うことはありますが、けっしてジャズフルーティストとしてではなく、先ほど述べたように、基本、クラシック音楽を軸にした独自のスタイルを持っています。

—その他、活動をされている“Trio Leilani”、“Duo Naiades”はどのようなアンサンブルですか?

S: 2021年に、フルート、ヴァイオリンNina Takai、チェロKaterina Giannitsiotiの3人で結成した“Trio Leilani”は、“Clazzic”とはまた違ったアプローチでバロックと現代音楽の融合を図り、スウェーデンの作曲家、H.Ajaxや、同じくギリシアの作曲家、P.Iliopoulosによって編曲されたバッハの『フルートソナタ ホ短調]や、『トリオソナタ ト長調]などの作品が入ったアルバムを今年録音する予定です。そこではフラッターや1/4音など現代奏法も駆使しています。

“Duo Naiades”は、フルートとハーブのデュオで、2014年の結成以来、長年一緒に演奏しているハーピストのFeodora Johanna Mandelと、様々なフランス曲をレパートリーとして演奏しています。



マスタークラスで指導するジルベスターさん



2009年に結成した“Clazzic



2017年には、ミュンヘン・バッハ管弦楽団と共に来日しソリストを務めた。来日時に観光で訪れた一コマ